

What's

「外国語学習のめやす」

「外国語学習のめやす」でめざすこと

「外国語学習のめやす」(以下、「めやす」)は、高校・大学の教師が協力してつくった、高校から始める外国語学習の指針です。理念や目標だけでなく、具体的な学習目標から授業設計や評価の方法までの全体像を提示しています。

教育理念として「他者の発見、自己の発見、つながりの実現」を、教育目標として、「多様なことばと文化を学ぶことを通して、学習者の人間的成長を促し、21世紀のグローバル社会を生きる力を育てることを掲げています。外国語教育は、学習した言語を運用する力だけでなく、他者に対する寛容性・共感性・尊重の念、内省・尊感情・自主性・自律性、他者との関係や新たな社会づくりに必要な創造性・柔軟性・責任感などの資質も養うことができると考えているからです。

これらの教育理念と教育目標をふまえて、総合的コミュニケーション能力の獲得を学習目標におきました。この能力は、多言語多文化が共生するグローバル社会づくりに参画し、自律的に生きるために必要な力であり、「言語」「文化」「グローバル社会」の三つの領域で構成されています。各領域において身につけたい能力を「わかる」「できる」「つながる」に分けて示しています。「わかる」は知識・理解目標、「できる」は技能目標(思考・判断、技能・表現を含む)、「つながる」は関係性構築目標として位置づけています。

「学習のめやす」の理念と目標

教育理念 他者の発見・自己の発見・つながりの実現



教育目標 ことばと文化を学ぶことを通して、学習者の人間的成長を促し、21世紀に生きる力を育てる



学習目標 総合的コミュニケーション能力の獲得
＝3領域×3能力+3連繋
3領域：言語・文化・グローバル社会
3能力：わかる・できる・つながる
3連繋：学習者・他教科・教室外

さらに、三つの領域、三つの能力を強化するものとして、三つの連繋も目標としています。まず一つめは、授業の中心に学習者をおき、学習者の関心・意欲・態度や学習スタイルにつなげることです。こうすることで学習者は主体的、能動的に学習を行えるようになります。学習ストラテジーを身につけ、生涯にわたって自律的に学習を継続できる土台を作ることができるのです。

二つめは、授業で取り上げる内容を、学習者がこれまで学習したことや経験したこと、他教科で現在学習している内容とつなげることです。これによって学習効果が高まり、外国語学習の内容が豊かになります。

三つめは、教室外の人、モノ（レリア・生教材など）、情報を積極的に教室に持ち込んだり、また教室外にでかけていったりして、学習を現実社会とつなげることです。これによって学習がリアルになります。

これら三つの領域における三つの能力と三つの連繋が、「めやす」のキーコンセプト $3 \times 3 + 3$ （スリー・パイ・スリー・プラス・スリー）となっています。これをまとめたのが、p.4の表です。この 3×3 はどれから始めてもよく、どこから身につけていてもよいものです。

また、言語領域の「できる」力の学習到達指標を、15の話題分野（自分と身近な人びと、学校生活、日常生活、食、衣とファッション、住まい、からだと健康、趣味と遊び、買い物、交通と旅行、人とのつきあい、行事、地域社会と世界、自然環境、ことば）、4レベル別に「～ができる」という能力記述文（can-do）で示していることも、「学習のめやす」の特徴のひとつです。



『外国語学習のめやす 2012—
高等学校の中国語と韓国語教
育からの提言』（寄贈版）がダ
ウンロードできます。



3×3+3 (スリー・バイ・スリー・プラス・スリー)

| 領域 能力 | 言語 | 文化 | グローバル社会 |
|----------|---|--|--|
| わかる | A. 自他の言語がわかる 》学習対象言語の文字・音声・語彙・表現(文法・語法)について知り、その仕組みを理解する。 》学習対象言語について新たな発見をしたり、母語と比較してその違いに気づいたりする。 | D. 自他の文化がわかる 》学習対象文化に関して表象するさまざまな文化事象(事物や行動)について知り理解する。 》学習対象の文化事象を観察して新たな発見をしたり、自文化や自分が知っている文化と比較して、その違いや関係性に気づいたり、推測したりする。 | G. グローバル社会の特徴や課題がわかる 》グローバル社会(自分・学校・身近な地域社会 - 日本社会 - 広域地域社会 - 世界が緊密につながる21世紀の多言語多文化社会)の一員としての自覚をもち、グローバル社会の特徴や直面する課題について理解する。 》グローバル社会に生きるために、21世紀スキルを身に付けることが必要であることを理解する。 |
| できる | B. 学習対象言語を運用できる 》学習対象言語を使って、身近な事柄や関心のある事柄について、自分の気持ちや考え、情報を伝えたり、相手の気持ちや考え、情報を理解したり、相手とやりとりをして運用することができる。 》学習対象言語と母語を比較して、その共通性や相違性、関係性を探究して分析することができる。 》言語的能力のギャップを埋めて、コミュニケーションを成立させるために、さまざまな言語および非言語ストラテジーを使うことができる。 | E. 多様な文化を運用できる 》学習対象文化と自文化をはじめ、多様な文化事象を比較して、知識情報を活用しながら、共通性や相違性を分析することができる。 》文化事象間の共通性や相違性の事由および文化事象の背景にある考え方や価値観などについて探究して調べ、自分なりの考えをまとめて表明することができる。 》文化事象を分析することを通して、文化の多様性や可変性といった文化をみる視点を身につけ、自文化を再認識したり、他の文化事象についてそれを適用したりすることができる。 》自他の文化をはじめ、異文化間の相違性から生じる誤解や摩擦、緊張関係を調整したり、妥協点を探ったりして、協力して問題を解決することができる。 | H. 21世紀スキルを運用できる 》さまざまな文化的背景をもつグループの一員として、メンバーと意見を交換したり、グループ全体の目標を達成するために、自分の役割を責任をもって果たすことができる。(協働) 》問題を解決するために、資料、状況を客観的に解釈・分析・吟味して判断し、自らの考えを根拠に基づいて表明することができる。(高度思考) 》情報を収集・編集・発信する際に、情報・メディア・テクノロジー(ICT)の特性をいかして、相互作用的に活用することができる。(情報活用) |
| つながる | C. 学習対象言語を使って他者とつながる 》学習対象言語や母語を使って、主体的かつ積極的に他者と対話をして、相互作用しながら共に関係をつくり上げていくことができる。 | F. 多様な文化的背景をもつ人につながる 》多様な文化的背景をもつ人びとと主体的かつ積極的に関わり、相互に作用しながら、軋轢や摩擦を乗り越えてつきあうことができる。 | I. グローバル社会とつながる 》人・モノ・情報にアクセスして、自分とつながりのあるグローバル社会のネットワークに関わり、ネットワーク全体の目標達成やグローバル社会づくりのために、自分の能力、知識、時間を提供したり、メンバーと助けあい協力して行動することができる。 |



| | |
|----|----------------------|
| 連繫 | 関心・意欲・態度/学習スタイルとつながる |
| | 既習内容・経験/他教科とつながる |
| | 教室の外の人・モノ・情報とつながる |

「外国語学習のめやす」の広がり

文部科学省の「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上のプログラム」のひとつとして「高等学校における中国語と韓国朝鮮語の目標・内容・方法に関する研究」が採用され、2006年1月に学習の指針づくりに取り組み始めたことが「外国語学習のめやす」プロジェクトのスタートでした。この研究の成果は2007年3月に『高等学校の中国語と韓国朝鮮語の学習のめやす（試行版）』としてまとめられました（プロジェクトメンバーは p.6 参照）。

2009年、外国語教育を通じて「人間形成とグローバル社会を生きていく力の育成」を図るためにはどうしたらいいのか、外国語教育の内容と方法について探るために、新たなプロジェクトチームを発足させました（p.6 参照）。そして、2012年3月、『外国語学習のめやす 2012—高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（寄贈版）を完成させ、5,000部刊行しました。中国語・韓国語教育を実施している高校、各地の教育委員会、大学の外国語教育関係者などへの寄贈が終了した後も入手希望の声が多く寄せられたことから、2013年1月に市販版3,000部を発行しました。

「めやす」を活用してもらうために

TJFは「めやす」をより深く理解してもらうための研修を実施するほか、活用方法を紹介するウェブサイト「めやす Web」を2012年に開設しました（p.7 参照）。2016年9月には、より多くの人に活用してもらうため、寄贈版をダウンロードできるようにしました。

「めやす」は、中国語と韓国語だけでなく、どの外国語教育にも応用できることから、さまざまな外国語教育関係者に「めやす」を理解してもらうことをめざし、2013年から3年計画で8言語（英・韓・西・中・独・日・仏・露）の教師を対象とする「外国語学習のめやす」マスター研修を実施しました（p.8～12 参照）。この研修を修了した55人のマスターが、「めやす」を初めて使う人たちのためにウォーミングアップ研修を企画、実施したり（p.13 参照）、ロシア語教育用「めやす」を作成したり（p.14 参照）、学会や研究会で発表したりするなど、「めやす」はさらに大きな広がりを見せています（p.15 参照）。

「学習のめやす試行版」作成プロジェクトメンバー

| | |
|----------|--|
| 【推進委員会】 | 鈴木啓修（埼玉県教育局）／中野佳代子（国際文化フォーラム） |
| 【中国語部会】 | 植村麻紀子（神田外語大学）／胡興智（日中学院）／千場由美子（大阪府立柴島高等学校）／藤井達也★（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）／古川裕（大阪外国語大学）／森茂岳雄（中央大学）／山田眞一（富山大学） |
| 【韓国語部会】 | 任喜久子（大阪府立花園高等学校）／康龍子（建国学園高等学校）／孫永善（神奈川県立川崎高等学校）／秋賢淑（二松学舎大学）／長渡陽一（立教新座高等学校）／野間秀樹（東京外国語大学大学院）／長谷川由起子（九州産業大学）／増島香代（神奈川県立横浜清陵総合高等学校）／山下誠★（神奈川県立鶴見総合高等学校）／油谷幸利（同志社大学） |
| 【アドバイザー】 | 當作靖彦（米国カリフォルニア大学サンディエゴ校）／吉岐久子（元米国ウィスコンシン州教育庁日本語教育アドバイザー）／吉田研作（上智大学） |

「外国語学習のめやす 2012」作成プロジェクトメンバー

| | |
|-------------------|--|
| 【全体監修・推進】 | 當作靖彦（米国カリフォルニア大学サンディエゴ校）中野佳代子（国際文化フォーラム） |
| 【中国語部会】 | 植村麻紀子（神田外語大学）／胡興智（日中学院）／胡玉華（関西学院大学）／千場由美子（大阪府立柴島高等学校）／藤井達也★（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）／森茂岳雄（中央大学）／山崎直樹（関西大学） |
| 【韓国語部会】 | 任喜久子（大阪府立花園高等学校）／釜田聡（上越教育大学）／金順玉（フェリス学院大学）／金孝卿（国際交流基金日本語国際センター）／中川正臣（元培材大学〈韓国〉）／阪堂千津子（東京外国語大学）／山下誠★（神奈川県立鶴見総合高等学校） |
| 【アドバイザー】 | 稲垣忠（東北学院大学）／佐藤郡衛（東京学芸大学）／吉田研作（上智大学） |
| 【拡大メンバー】** 中国語 | 岸昌代（大阪府立桃谷高等学校）／須田美知子（東大阪市立日新高等学校）／鷹野由紀子（関西学院千里国際中学部・高等部）／山崎順平（宮城県古川高等学校）／若森幸子（埼玉県立戸田翔陽高等学校） |
| 【拡大メンバー】 韓国語 | 李貞榮（大阪府立佐野工科高等学校）／川上知美（大阪府立桃谷高等学校）／澤邊裕子（宮城学院女子大学）／中野徹生（富山県立伏木高等学校）／増島香代（神奈川県立横浜清陵総合高等学校） |

★は部会リーダー、★★「拡大メンバー」は単案の作成に協力。所属・肩書きはプロジェクト実施当時のもの。

「マイチャレンジ」コーナー

『外国語学習のめやす』を取り入れた授業実践例の概要や評価方法、学習成果物のサンプルなどを紹介しています。2016年6月末現在、8言語、約90件のチャレンジを掲載。閲覧トップ5は、「留学先でかかるコストはどのくらい？—物価を調べてみよう」（ドイツ語、大学）、地域活性化を図るプロジェクト「ご当地グルメ千歳バーガーを海外からの観光客にプロモーションしよう」（英語、高校）、国語教科に「めやす」を取り入れた「主体的に『舞姫』を読む」、フランス語と中国語の合同で行う自己紹介スピーチ「おしゃれなフランス語、かわいい中国語」、地域の中国人を招待する「文化祭で中華模擬店を開こう」です。

「ノウハウ」コーナー

学期のはじめのつかみの授業、語彙や表現の導入方法、ICT活用術などを紹介しています。

マイチャレンジ



「春」の語彙マップを作ろう

鎌田美保（かまだ みほ）

日本語 大学生

語彙の勉強は単に語彙の意味を知って使えるようになるだけでなく、そのことばを通して対象言語を話す人たちの考えに触れたり、そこから自分たちの考えや文化についても振り返るような機会にもなると考え、実践したプロジェクト学習である。

ことば ジャーナル 季節感 春
語彙マップ

マイチャレンジ



UNESCO世界無形文化遺産「和食」の作り方を紹介しよう

寺尾美貴里（てらお みどり）

スペイン語 中学生

スペイン語画の人たちに紹介したい和食のレシピを作成して作り方の動画を発信する、生徒たちの発案がもとになったプロジェクト。現場で調査可能な食材などについて調べた活動を入れたことで、視聴者を惹きつけた作品作り、異文化理解にもつながられている。

YouTube グローバル化 レシピ
動画 和食 撮影 料理
異文化理解 調理実習

マイチャレンジ



学校紹介PVを作ろう～複眼的な視点をもって

柳葉子（やなぎ もとこ）

中国語 中学生

中国ルーツの生徒と日本人生徒が共に学ぶ授業の一環として実施されたプロジェクト。来訪する中華圏の高校生に向け、日中の学校の異同にも着目できるような内容の「学校紹介PV」を作成する活動である。情報機器が苦手な生徒も無理なく取り組むことができるように、簡単な機器（アプリ）から進しいものへと段階的に導入することがポイント。

iMovie XingBoard リテラシー
ロイロノート 多様性 写真
学校紹介 情報 撮影 白文化

新着の「マイチャレンジ」

マスター研修

マスター研修は1年に2回、合宿型で行われました。研修参加前には「めやす」の考えに基づいた授業案を作成、研修中にこの授業案をより練り上げ、研修後に実践、そして2回目の研修で発表するなど課題の多い研修でした。

3年計画で始まった「外国語学習のめやす」マスター研修の最終年度、2016年3月26日に第1回から第3回のマスターが集まりました。「めやす」をより多くの人が活用し、広がっていくように、マスターとして何ができるのか、どんなことをやりたいのか、今後の活動について話し合いました。

例えば、「めやす」を活用して外国語共通の教員養成課程のカリキュラムをつくったり、英語以外の外国語を学ぶ意義をアピールするために、言語横断で学習者と教員に対するアンケート調査を実施するといったアイデアがでました。なかにはすでに動きだしたものもあります。植村麻紀子氏（神田外語大学）は、「めやす」に基づく授業づくりを学んだ学生が、大学のオープンキャンパスで高校生を対象とする中国語の授業を行う機会をつくりました。

これまで実施されたウォーミングアップ研修やロシア語教育用の「めやす」づくりも、マスターたちから出てきた企画にTJFが協力し実現しました。今後もTJFはマスターといっしょに「めやす」を広げていきます。



© 但馬一憲

「外国語学習のめやす」マスター研修修了者

2013年度

池谷尚美（横浜市立大学、独）／伊藤都章（北海道札幌西高等学校、英）／任喜久子（大阪府立花園高等学校、韓）／植村麻紀子（神田外語大学、中）／大森洋子（明治学院大学、西）／角谷昭美（富山県立志貴野高等学校、露）／澤遣裕子（宮城学院女子大学、日）／四宮瑞枝（東京大学、西）／田中祐輔（早稲田大学大学院、日）／田原憲和（立命館大学、独）／中川正臣（目白大学、韓）／中西千香（愛知県立大学、中）／西香織（北九州市立大学、中）／野澤督（慶應義塾大学、仏）／阪堂千津子（東京外国語大学、韓）／藤井達也（埼玉県立伊奈学園総合高等学校、中）／山下誠（神奈川県立鶴見総合高等学校、韓）／横井幸子（大阪大学、露）

2014年度

押尾江里子（佼成学園女子中学校・高等学校、英）／落合佐枝（獨協大学、西）／門脇薫（摂南大学、日）／胡玉華（北九州市立大学、中）／祭貴貴美子（和歌山県立橋本高等学校、英）／齊藤公輔（中京大学、独）／阪上彩子（大阪大学、日）／菅沼浩子（聖母被昇天学院中学校高等学校、仏）／鈴木慶夏（釧路公立大学、中）／住田環（立命館アジア太平洋大学、日）／ナカガワ・マルガリータ（大阪大学、西）／南潤珍（東京外国語大学、韓）／古田富建（帝塚山学院大学、韓）／ボンダレンコ・オクサーナ（富山県立伏木高等学校、露）／松崎真日（福岡大学講師、韓）／茂木良治（南山大学、仏）／森内悠佳子（埼玉県立伊奈学園総合高等学校、仏）／依田幸子（北海道札幌西陵高等学校、露）

2015年度

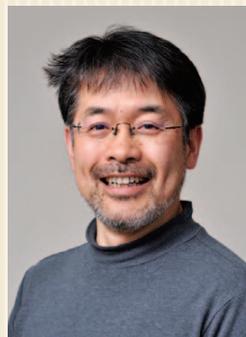
李安九（岡山大学、韓）／小田桐奈美（関西大学、露）／鎌田美保（愛知県立大学、日）／亀井みどり（上智大学 Language Learning Center、韓）／曲明（室蘭工業大学、中）／櫻井千穂（大阪大学大学院、日）／島田幸子（大妻中野中学校・高等学校、仏）／城間真理子（沖縄県立浦添商業高等学校、中）／神農朋子（同志社国際中学校・高等学校、韓）／鈴木冴子（埼玉県立伊奈学園総合高等学校、独）／寺尾美登里（大阪府立松原高等学校、西）／中野茂（早稲田大学高等学院、仏）／能登慶和（東京都立北園高等学校、独）／長谷川由起子（九州産業大学、韓）／平畑奈美（滋賀大学准、日）／福田知代（関東国際高等学校、露）／政岡潔子（埼玉県立立坂戸高等学校、西）／村上陽子（関西学院大学、西）／柳素子（大阪府立門真なみはや高等学校、中）

（ ）内の英韓西独中日仏露は担当言語

「外国語学習のめやす」マスター研修の成果

山崎直樹・関西大学教授

お茶やお花を習うとまず型から入る。初心者でも型通りにやれば形になる。これと同じように「外国語学習のめやす」（以下、「めやす」）の理念に基づいたプロジェクト型学習の設計手順の型をつくりたい。そしてそれを可視化したい。これが研修の目的の一つであった。その型の確立と可視化のために、プロジェクト型学習を設計するにあたり、どのようなことを予め考えておかなければならないか、それをどんな順序で決めていくべきかなどをできる限り、決まった形で記述できるようにした。



© 但馬一憲

この試みは成功したと思う。TJFの「めやす Web」に掲載されている実践報告を見れば、同じフォーマットで記述されていることに気がつくだろう。また、「オールマスター会合」に駆けつけてくれたひとりが、「ここに来るとみんなが同じことばでしゃべっている。説明なしに理解しあえる」と語っていた。このことばも証左になるだろう。確立され可視化された「型」がわれわれの共通言語となったのだ。

「めやす」型フレームワーク

さらに、予想していなかった成果もある。「めやす」流のプロジェクト型学習では「形に残る成果物」を重視する。研修を通して、この成果物の形態が、より高度で（ICTを駆使したり、芸術的なセンスを要したり……）、より多彩に（単なる発表会ではなくコンペティション形式の発表会にしてみたり、ボードゲームを開発したり……）なった。それでいて、それらのなかには制約の多い高校の現場でも許容される活動が多く含まれている。こうした成果物の設計が当たり前ものになってくるにつれ、「めやす」型フレームワークとでも呼ぶべき言語活動の流れを提示できるようになった気がする。

「めやす」型フレームワークでは、言語の構造と機能を理解し運用する活動を最終目標にするのではなく、「その言語を使

うコミュニティで新たな人と人の関係のきっかけになる成果物を作り出す」ことを目標とする。このような成果物をプロジェクト型学習のゴールに置くことにより、『めやす』の『つながる』ってわかりにくいよね」という声に対する解答を示せるようになったのではないかと思う。「めやす」の冊子だけではまだわかりにくかった理念が実践を通して目に見える活動の流れになった。これは予想外の成果であったと考える。

言語を超えたつながり

この研修では、多言語混成チームで作業を行った。これは「そのほうがおもしろいと思ったから」である。この思いつきの成果ははるかに予想を超えた。誰も共同作業中に言語の違いを理由に「No」と言ったりなどしなかった。それどころか、研修が終わっても、教える言語の違いを超えた共同作業を続けているグループがある。また、有志で団体を組織し、外国語教育に関わる活発な活動を展開していたりもする。「コミュニケーションの目的は新たな人的ネットワークを作ること」を標榜する「めやす」の研修で、このようなつながりができるのは当たり前なのかもしれないが、何だかとても嬉しい。

仲間を増やすために

3年にわたる研修は終わったが、新しい課題が待っている。それは「検証と共有」である。「検証」とは、「めやす」に基づいたプロジェクト型学習の効果を検証して周囲に示すことである。例えば、学習者が何かの交流をしたとする。その交流のために生み出された成果物を評価し、学習者にその交流を振り返らせることは広く行われている。これに加え、「その交流を経て学習者の内面がどう変わったか」をきちんと検証して、学習効果として世に示すことが必要である。「共有」とは、我々が「めやす」型プロジェクト学習で作上げたリソース（これまでに設計、実施した学習コンテンツ）を、もっと多くの仲間と共有するための仕組みを考えることである。そしてそれを新しい仲間を増やすのに使っていきたい。

（マスター研修主任講師）

3回のマスター研修に参加して

田原憲和・立命館大学准教授

2013年度から2015年度まで3回の「外国語学習のめやす」マスター研修（以下、マスター研修）に参加しました。第1回マスター研修を修了した後、第2回マスター研修には修了者代表として、第3回マスター研修にはカリキュラム作成委員の1人として参加しました。このマスター研修の最大の特長は、それぞれの言語の教員が、言語の枠を超えてグループ活動を行うという点にあったと思います。それぞれの言語教育における個別の事情をとりあえずは脇に置いた上で作業をしていくことで、「外国語学習のめやす」（以下、「めやす」）の本質を理解することにエネルギーを集中させることができました。

この3年間で、私にとって「めやす」が、「授業運営のために参照するもの」という存在から「授業設計上の基本的考え」という存在にまでなってきたように思います。つまり、「めやす」を学ぶ段階から利用する段階に、そして「めやす」をベースに活用し応用していく段階になりました。

3回のマスター研修の修了者が私を含め55名います。それぞれの言語別に考えると5～10名程度で、決して多い数とはいえません。しかしながら、マスター研修を通じて各言語内部のみならず、言語の枠を超えたつながりが構築されてきました。こうした言語の枠を超えた連携により、さまざまな実践報告やワークショップ、それぞれの所属大学や地域におけるウォーミングアップ研修の開催が増えていけば、「めやす」がより広く認知されていくのではないのでしょうか。

「めやす」を普及させていくと同時に、55名の修了者がさらに「めやす」への理解を深めていくことも重要です。そのような場をどのように確保していくかが今後の課題となるでしょう。「修了者のためのブラッシュアップ研修」なども今後は必要となってくるのだらうと感じています。



© 但馬一憲

ウォーミングアップ研修

TJFは、『外国語学習のめやす』を初めて手にする人たちを対象に「ウォーミングアップ研修」をマスターとともに実施しています。「めやす」の枠組みを取り入れた授業実践をサポートすることが目的です。この研修の多くは担当言語の異なるマスターが共同で企画、実施しています。その役割は、研修の中身を考えるだけでなく、会場探しや広報にも及びます。

初めてのウォーミングアップ研修は、2014年4月に、ドイツ語の田原憲和氏（立命館大学）とロシア語の横井幸子氏（大阪大学）が講師となり、立命館大学大阪キャンパスで開催されました。この研修に神奈川からドイツ語の池谷尚美氏（横浜市立大学）が参加していました。池谷氏は、自分がウォーミングアップ研修を実施するにあたって、どのようにやるのがいいのかを考えていたのです。そして同年11月に、フランス語の野澤督氏（慶應義塾大学）と共同でウォーミングアップ研修を実施しました。池谷氏は、他のマスターが企画しやすいように、一日の研修がどんな流れで行われるのかを示した詳細なカリキュラムや研修の様子がわかる動画をつくり、マスター仲間と共有してくれています。

2015年8月には韓国語の中川正臣氏（目白大学）と南潤珍氏（東京外国語大学）が、12月にはドイツ語の齊藤公輔氏（中京大学）が中心となり、池谷氏とフランス語の茂木良治氏（南山大学）といっしょに研修を実施しました。

2016年は、初めて日本語教師対象のウォーミングアップ研修が開催されるほか、韓国語教師対象の研修の実施も決まっています。

午前中 始まりの風景



・何となく、緊張している感じ・・・

午前中 ワーク 発表



発表は2グループに分かれて。
担当したシナリオ分析結果を報告。

池谷氏が作った動画の一部

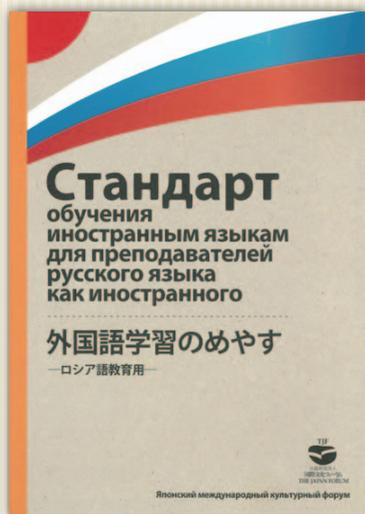
ロシア語教育用「めやす」発行

TJF が高校と大学のロシア語教育関係者と共同で取り組んだ『外国語学習のめやすーロシア語教育用ー』(日露併記)が2016年3月に完成しました。プロジェクトスタートから1年後のことです。プロジェクトの始まりは、2012年に横井幸子氏(大阪大学)が『外国語学習のめやす』を手にしたことにさかのぼります。アメリカの大学院で学んだ新しい外国語教育の理論が日本語で読めることに感激したと横井氏は話します。

2013年度の「外国語学習のめやす」マスター研修を修了した横井氏は、「めやす」を高校のロシア語教育に活用する方法を考え始めました。そして、日本語ネイティブの先生にもロシア語ネイティブの先生にも使ってもらえる日露併記の「めやす」づくりの構想を抱くようになりました。TJFはその構想を聞き、2015年2月にプロジェクトを立ち上げたのです。プロジェクトチームは、横井氏をリーダーとする全6名。全員がマスター研修の修了者です。

ロシア語教育用の「めやす」は、日本の高校と大学のロシア語教育の現場だけでなく、ロシアの中高校の日本語教育でも使われ始めています。

ロシア語だけでなく、「めやす」マスター研修の修了者が中心となり、「スペイン語学習のめやす」がすでに2015年3月に発行されたほか、フランス語、ドイツ語などでも学習指針づくりのプロジェクトが進んでいます。



ロシア語、スペイン語ともに
ダウンロードできます。



ロシア語



スペイン語

さまざまな現場での活用

マスターの山下誠氏（神奈川県立鶴見総合高校）、中川正臣氏（目白大学）が中心となって2012年に外国語授業実践フォーラムが立ち上がりました。教えている言語や立場を超えて自分の授業実践を振り返り、問題意識を共有して、よりよい授業実践につなげていくことをめざしています。設立から3年間は、「めやす」をテーマの柱とし、年数回のワークショップが行われました。

2016年2月に北海道大学国際本部留学生センターが実施した第30回日本語・日本語教育研修会では、テーマとして「めやす」の理論と実践が取り上げられました。

マスター研修の主任講師、山崎直樹氏（関西大学）が講演、マスターの田中祐輔氏（東洋大学）と澤邊裕子氏（宮城学院女子大学）が実践報告を行いました。

海外では、2016年3月にインドネシア・ジャカルタ国立大学で開催された国際セミナー「日本語能力を向上させるための学習イノベーション」で、マスターの門脇薫氏（摂南大学）が「めやす」を日本語の授業にどのように活用するかについて発表しました。TJFはこのセミナーに参加した高校、大学の教師の学校に「めやす」各1冊を寄贈しました。

また、ベトナム・ホーチミン市師範大学で2016年に始まった日本語教師研修（年4回程度の集中研修）では、「めやす」の監修者である當作靖彦氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校）が主任講師を務め、「めやす」を教材にした研修が行われています。

これらのほかにも、2012年に発行された寄贈版とあわせて8,000冊の「めやす」が広く活用されています。



ホーチミン市師範大学で実施された日本語教師研修の様子



最終年度の「外国語学習のめやす」マスター研修にて

What's「外国語学習のめやす」

2016年10月発行

公益財団法人国際文化フォーラム

〒112-0013

東京都文京区音羽1-17-14 音羽YKビル3F

Tel: 03-5981-5226

Fax: 03-5981-5227

Email: forum@tjf.or.jp

URL: www.tjf.or.jp/

Facebook: <https://www.facebook.com/TheJapanForum/>

デザイン 山本義明 (goldfish design)